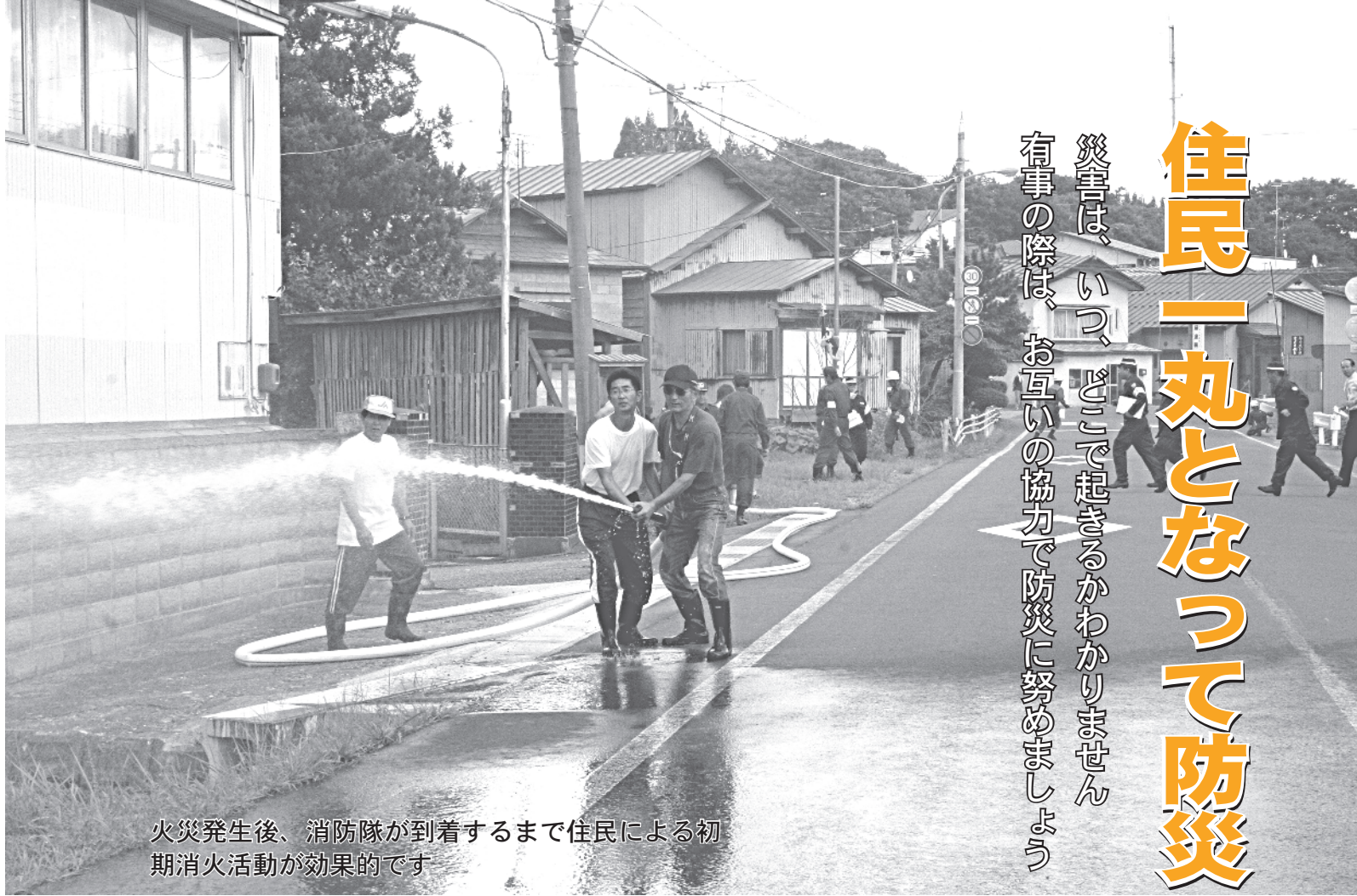


# 住民一丸となって防災への対応を

災害は、いつ、どこで起きるかわかりません  
有事の際は、お互いの協力で防災に努めましょう



火災発生後、消防隊が到着するまで住民による初期消火活動が効果的です

平成18年度秋田県消防協会  
大館北秋田支部防災訓練

県消防協会大館北秋田支部と市が主催の防災訓練が9月3日、合川地区駅前周辺で行われ、消防団員や地域住民、関係者など約300人が参加しました。訓練は、午後1時、震度6弱以上の直下型地震が発生し、合川地区では多くの家屋崩壊等の被害。間もなく鳥屋岱交差点付近から出火し、隣接する民家に延焼。折からの強風と乾燥で大規模火災に広がる恐れがあるとの想定で行われました。

災害発生後、ただちに市役所内に災害対策本部を設置し、県へ報告。合川支所では、被害状況調査報告を衛星携帯電話で本部へ報告。火災発生直後は、住民による火事ぶれ、初期消火活動が行われ、消防隊の到着まで住民による消火活動と救護活動が行われました。そして、延焼拡大の恐れがあるとして合川中央駐車場に現場指揮本部と救護所を設置。統監に岸部市長。また、消防隊による消火活動のほか、延焼を食い止める水幕ホースの訓練も行われました。

救護訓練では、合川駅で避難車両が

## 有事の際にはあわてずに行動を

台風や地震、火災と、災害はいつやってくるかわかりません。災害が起きたときには、あわてずに情報を正しく確認、伝達し、地域のみなさんと一緒になって行動することが大切です。そのためにも、日頃の備えや避難場所の確認をしておきましょう。

避難場所など防災全般については、各支所の防災担当までお問い合わせください。◆市民生活課 62・1117／合川支所 78・2113／森吉支所 72・3115／阿仁支所 82・2113

## 【県防災ヘリコプター「なまはげ」】

秋田県は、山村、へき地等の交通遠隔地から救急患者や傷病者の医療機関への搬送及び山や海での捜索救助並びに台風や地震などの自然災害や山林火災などに機動的に対応するため消防防災ヘリコプター「なまはげ」を導入し、平成11年4月1日に消防防災航空隊を発隊させました。

価格は約5億円。本体はアルミとプラスチック製です。エンジンはジェットエンジンを2機装備、それぞれ700馬力。一つが止まっても飛ぶことができます。最高速度は280km/h、秋田空港から合川までは約20分。秋田県内はすべての地域へ約30分で到着できるそうです。最大運用高度は4500m。鳥海山の約2倍の高さです。

最大乗員はパイロット2人を含め11人。県防災ヘリコプター「なまはげ」は、いろいろな状況や災害に対応し、県民の生活と安全を守ります。



県警の救助ヘリ「なまはげ」による  
高所からの救助訓練（合川高校）



▲水幕ホースで防御線を張り、延焼を食い止める訓練。路上駐車が消防活動の妨げになることもあります。違法駐車は厳禁です。



▲救助工作車による救出訓練。救助隊が油圧カッターなどで車のドアや屋根を切断して救出しました。



▲消火器での消火訓練